

「研究は楽しい **謎** 解き」

Vol. **10**
February
2017

文化功労者 小松和彦先生 (本学卒業生) に 埼玉大学フェロー称号を授与

本学は1月23日、平成28年度文化功労者に選出された妖怪研究の第一人者小松和彦先生(1970年教養学部卒)に、卒業生・修了生で特に文化や学術の各界で顕著に優れた業績又は功勞を挙げた方に与えられる「埼玉大学フェロー」の称号を授与しました。授与式後には、小松先生の記念講演会が行われ、その功績に在学学生・教職員から大きな拍手が贈られました。

埼玉大学フェロー称号授与式

小松先生は、本学卒業後に東京都立大学大学院を修了、信州大学、大阪大学教員を歴任後、現在は国際日本文化研究センターの所長として活躍され、民間伝承などの分野で、新たな学問分野を確立したとして、本年度の文化功労者に選出されました。その功績を称え、「埼玉大学フェロー」の称号を授与することとなりました。

受賞式で山口宏樹学長は「大学としてとても嬉しい。小松先生の話の励みに、学生の皆さんも大学で出会った学問、先生、仲間たちを大切に、卒業後に活躍してほしい。」と挨拶し、小松先生は本学で学んだ日々を振り返り、「高校では知らなかったいろいろな学問があり、興味をもったことは何でも学べる場所に來られて、知的な刺激を受けた。埼玉大に來なかったら今の研究はしていなかったかもしれません。」と笑顔で語り、最後に「チャンスを見つけて自分の道を切り開き、社会で活躍してほしい。」と学生に期待を寄せました。



1 挨拶する小松先生 2 満席となった会場 3 山口学長と記念撮影



4 講演する小松先生 5 学生からの質問に答える小松先生
6 学生から花束が贈られました

記念講演会「謎解きという快樂に魅せられて—私の学問人生—」

受賞式に続き、「謎解きという快樂に魅せられて—私の学問人生—」と題した記念講演会が行われました。小松先生は、本学教養学部在籍時に文化人類学に出会い、秩父郡の旧両神村で「オサキ狐」など憑きものや妖怪の伝承についてフィールドワークを行い、そこで民間伝承の調査の難しさと異文化を深く理解する楽しさを味わったことが、今の研究につながっていると述べました。その後、東京都立大学大学院で出会った、文化功勞者選出の理由ともなる40年に及ぶ高知の民間信仰「いざなぎ流」の研究、そこからきっかけを得た「妖怪画像」研究に腐心された話が繰り広げられました。

講演の中で小松先生は、「研究はつらくても同時に楽しい謎解き。勉強や論文を書くとき、まずは楽しむことを一番の柱にして頑張ってください。」と後輩たちへエールを送りました。

2 地域 JR埼京線 × 埼玉大学! 埼京線各駅で大学PRポスターを掲示

2015年6月から始めたJR 埼京線と埼玉大学のコラボレーションによるポスター広告が、JR大宮駅など埼京線各駅で掲載されました。JR 東日本大宮支社と埼玉大学は 2015年8月に、埼玉大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成に向けた協定を締結しています。

その取り組みのひとつとして、昨年に引き続き、今年も地域を盛り上げようと、大宮駅のデジタルサイネージを利用しデジタル広告を放映しました。



4 地域 運動施設維持管理開放事業 10周年 山口学長が感謝状贈呈

埼玉大学では、平成 19 年 10 月より運動施設維持管理開放事業として、テニスコート、サッカー場、野球場等の運動施設を地域の皆さまへ開放し、開かれた大学として地域貢献に取り組んでいます。12月6日、本事業の実施事業体である SARI 有限責任事業組合（株式会社高脇基礎工事、株式会社カタヤマ、田中電気株式会社、株式会社ユーディーケー



サービス)の各社に対し、事業開始10周年の節目を機に、これまでの功績を讃え、山口宏樹学長より感謝状が贈呈されました。

6 産学官 先端ラボ 「第2回メディカル・イノベーション・セミナー」を開催

11月8日、埼玉大学先端産業国際ラボラトリーがメディカルイノベーション研究ユニット (MiU) 第2回セミナー「蛍光物質による検出技術の創出」を開催しました。今回は蛍光物質による検出技術にテーマを絞り、企業、自治体、研究機関及び大学関係者など約 80 名が参加しました。標的となるインフルエンザウイルスに関する最新の知見や、蛍光物質による検出技術の創出に関する技術及びその適用分野の最新の動向など、本学を含む2大学、2企業による多岐にわたる内容の講演があり、参加者から好評をいただきました。



8 教育 ハイランド米国大使館首席公使による 特別講演会を開催

10月6日、ジェイソン・P・ハイランド米国大使館首席公使をお迎えして特別講演会を開催しました。知日家として知られる公使が、本学学生に向け、未来のさまざまなイノベーションにおける日米協力の重要性、



また米国留学のメリットなどについて幅広く講演しました。本学学生の米国留学希望者は多く、また同国における提携校も増えてきているため、在京米国大使館から直接お話を伺うことは学生にとって非常に有意義なものになりました。

3 地域 第6回 ホームカミングデーを開催

10月29日、埼玉大学同窓会の協力の下に、同窓生・元教職員・地域の皆様を対象に第6回ホームカミングデーを開催しました。教育学部山本利一副学部長による「学校教育を支援する教材とカリキュラムの開発」と題した講演の後、学術研究や課外活動などの成果が特に顕著である学生の表彰式を行いました。後半には、各学部・同窓会などのイベントや交流会が催され、参加者の皆さまに本学の近況を知っていただくと共に、親睦を深める機会となりました。



5 地域 教育学部音楽分野教員による演奏会 「音楽の贈りもの」を開催

12月11日、教育学部芸術講座音楽分野教員による演奏会「音楽の贈りもの」が彩の国さいたま芸術劇場において開催されました。この演奏会は、埼玉大学開学 50 周年の1999年に開催されてから今回で17回目を迎え、多くの皆さまに親しまれています。当日は地域の方々をはじめ卒業生や学生など 500 名を超える皆さまに会場いただきました。

演奏会では、フルート、ピアノ、ヴァイオリン、声楽により、バレエ組曲「くるみ割り人形」(P. チャイコフスキー) など数々の名曲が繰り広げられ、最後には鈴木静哉教授が編曲したクリスマスメドレーを演奏し、来場者から大きな拍手が送られました。



7 産学官 「第17回 埼玉大学 産学交流会テクノカフェ」を開催

11月28日、埼玉大学産学交流会テクノカフェ（主催：埼玉大学産学官連携協議会、共催：埼玉大学）が開催され、協議会会員企業・団体を中心に約150名が参加しました。「イノベーションを身近に! ~新たな価値創造、共創を考える~」をテーマに、現在注目されているIoT分野における産学連携の取り組み、最新動向についての講演や、企業からの研究事例紹介、本学教員からの研究成果発表・パネル展示などが行われました。



価値創造、共創を考える~」をテーマに、現在注目されているIoT分野における産学連携の取り組み、最新動向についての講演や、企業からの研究事例紹介、本学教員からの研究成果発表・パネル展示などが行われました。

9 教育 「彩り ~埼玉大学教育学部芸術専修有志展~」 を開催

教育学部芸術専修制作の展示会「彩り - 埼玉大学教育学部芸術専修有志展 -」が、埼玉りそな銀行で開催されました。この展示会は、埼玉りそな銀行が、この秋開催された国際芸術祭『さいたまトリエンナーレ 2016』の開催趣旨に賛同し、さいたま市の文化芸術振興へ貢献するためのイベントとして、本学と連携して実施したものです。学生一人一人の思いが込められた絵画 9 点が展示され、会場に彩りを添えました。10月12日には表彰式が行われ、4年生の小島雄大さんの作品「流れる」が最優秀賞に選ばれました。



10

教育

学生が 埼玉県知事に 政策提言

11月11日、経済学部及び工学部の学生が、上田清司埼玉県知事に政策を提言する「知事と学生の意見交換会」が開催されました。この取り組みは2010年に始まり、若者の感性を県政に生かすとともに、大学を生きた学習の場とすることを目的に今回で7回目を迎え、これまでに実現に至った政策もあります。当日は、交通安全対策や食品ロス、建設業従事者の減少など、県が抱える課題について5つのゼミが政策提言を行いました。政策提言終了後、上田知事から「今回は統計の分析がしっかりとしていて、実現可能性が高いものが多かった。」と総評がありました。



12

教育

学生がさいたま市政に提案 学生政策提案フォーラムで優秀賞を受賞

11月20日、「大学コンソーシアムさいたま」加盟大学の学生が、さいたま市の政策について企画・提案する「学生政策提案フォーラム in さいたま」が開催され、本学からは経済学部齋藤友之ゼミがエントリーしました。6回目となる今回のテーマは「東日本の交流拠点都市」。子育て・健康・観光など幅広い分野から、住民・大学・企業などと連携し、市を含めた東日本全体の活性化を一層進め、連携・協力による相乗効果を生み出せる取り組みについて政策提案を求め



る内容となりました。齋藤ゼミは、テーマを「VR(Virtual Reality)を活用した広域連携による観光促進」とし、近年、様々な分野で利用され始めているVRを活用して、連携都市の観光PRを実施することを提言し、優秀賞を受賞しました。

14

研究

国際会議で最高権威を受賞 小林信一名誉教授

小林信一名誉教授（1969年理工学部卒）が昨年9月に中国蘇州で開催された国際会議 ISDEIV2016（真空中の放電と絶縁に関する国際会議）において、同会議における最高権威「Walter P. Dyke Award」を受賞しました。この賞は、真空中の放電と電気絶縁の分野に最も貢献した研究者に授与されるものです。受賞した研究題目は「真空中の電気絶縁特性に関する研究-In-situ 表面分析と真空絶縁破壊測定」で、表面処理・分析および高電圧試験を真空中で一貫して行うことが



受賞式での記念撮影（右：小林名誉教授）

できる実験装置を開発し、真空絶縁破壊現象における電極表面状態の把握の重要性を指摘し、高電圧電極や電気絶縁材料の表面状態とこれらの真空中の絶縁破壊現象の基礎的なメカニズムを明らかにしたことが高く評価されました。

16

研究

本学大学院生が参加する 113 番元素（ニホニウム）発見チームが ベストチーム・オブ・ザ・イヤー 2016 を受賞！

113番目の新元素「ニホニウム」を発見した理化学研究所仁科加速器研究センター超重元素研究グループの森田浩介グループディレクターを中心とする研究グループが、ベストチーム・オブ・ザ・イヤー 2016 を受賞しました。現在は山木さやかさん（大学院理工学研究科博士後期課程 2年）が同研究グループに所属しています。物質のもとになる元素の発見者が日本の研究グループによるものは、アジアの国としても初であり、その命名権を獲得したことは非常に大きな化学の1歩であり、日本の科学技術力の高さを世界に示したことが評価され、今回の受賞となりました。



プロジェクトメンバー 山木さやかさん

11

教育

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 創立 20 周年記念式典が開催

11月12日、埼玉大学他4大学で構成する東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科創立20周年記念式典がアルカディア市ヶ谷にて開催されました。式典では構成大学（東京学芸大学、埼玉大学、千葉大学、横浜国立大学）4学長による記念講演があり、本学、山口宏樹学長は「グローバル社会におけるイノベーションと学際性—社会基盤工学の立場から—」と題した講演を行いました。式典の後、参加者は祝賀会で交流を深めました。



13

教育

財務省関東財務局と連携 附属中で「財政教育プログラム」を実施

12月14日、財務省関東財務局と連携した特別授業「財政教育プログラム」を附属中学校において実施しました。この授業は、全国国立大学附属学校PTA連合会主導の下、税や財政の仕組みを学んでもらい、国の未来について考え判断できる子どもを育成することを目的に、社会科学の授業の一環として実施。講師として、関東財務局総務部経済調査



課長の若尾仁氏ほか10名のアドバイザーをお招きし、第3学年の生徒が日本の受益と負担の観点から未来の社会保障について各班で話し合い、考えを発表した後、質疑応答を通じて学びを深めました。

15

研究

ベトナム教育省より表彰 大学院理工学研究科 睦好宏史教授

11月19日、大学院理工学研究科と協定を提携しているベトナムの国立建設大学 (NUCE) の創立50周年記念式典がハノイの NUCE で開催



されました。式典では、大学院 GP における連携大学院の設置、日本人学生の派遣、留学生の受入れ、大学院共同プログラムの設置など15年間にわたる NUCE への貢献に対して、同研究科において中心的役割を果たした睦好宏史教授が、ベトナム教育省大臣から「教育貢献賞」を授与されました。

17 国際 エスリンゲン工科大学学長が 山口学長を訪問

9月30日、本学の交流協定校であるエスリンゲン工科大学（ドイツ）のChristian Maercker学長が山口学長を表敬訪問しました。Maercker学長は2002年7月の協定締結以来、30名以上の交換留学生を本学が受け入れていることに謝辞を述べ、今後の交流活動についても意見交換を行いました。



また、大学院理工学研究科を訪問し、技能伝承や脳機能計測をはじめとする研究を視察しました。

18 国際 留学生と企業を結ぶ 「第11回埼大ワールドカップ」を開催

11月12日、埼大ワールドカップをレゾランドにおいて開催しました。このイベントは、フットサルを通して本学の留学生と、埼玉県内企業の国際交流を促進することを目的に、この5年間で11回目の開催となりました。今回は、8企業と、中国、ベトナム、バングラデシュなど計6ヶ国の留学生など約160名が参加し、学生ボランティアスタッフの協力もあり、地域社会との交流がより一層広がりをもつ大会となりました。交流会では、企業の方々それぞれブースを設け、ミニ企業説明会の開催や通訳ボランティアを介したフリートークでさらに親睦を深めました。



19 国際 JICA国別研修でブルキナファソ・モンゴル 教育研修団を研修

西アフリカの内陸国ブルキナファソの教育関係者10名が9月21日より約2週間、国際協力機構（JICA）国別研修の一環で、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の協力を得て本学を訪問しました。本研修は、本国において基礎教育普及の上で大きな課題となっている教員養成制度の強化に資することを目的としており、研修期間中、埼玉大学、埼玉県立総合教育センター、さいたま市、JICAでの講義・演習に加え、本学附属小学校など県内3カ所の小学校で、授業、給食体験、生徒との交流会等を行いました。続いて10月31日（月）から3週間に渡り、モンゴル国の教育関係者10名が、国際協力機構（JICA）国別研修「新カリキュラム実施・評価・改善に係る能力強化」の一環で、本学を訪問しました。研修期間中は、本学やJICAでの講義・演習をはじめ、学長表敬、附属小学校における算数・理科の授業参観、埼玉県立総合教育センター視察、蕨市教育研究会算数・数学会の協力のもと蕨市立東小学校における算数授業研究参観などを行いました。



20 国際 佐藤勇一理事らが講演 India-Japan Fest 2016

佐藤勇一理事（研究・産学官連携担当）と大学院理工学研究科の坂井真文教授が、10月20日から2日間にわたるインドのジャイプルで開催されたIndia-Japan Fest 2016に主賓として参加しました。同フェスタは、両国の高等教育における科学技術教育ならびに研究交流の発展を目的として開催されている日印の2国間会議で、今回で11回目の開催。佐藤理事は、「日印関係の発展：新たな戦略的連携」をテーマに、本学における研究活動ならびに国際化の動向、これからの高等教育システムの機能などについて講演し、坂井教授は、「日印の学生および研究交流について」をテーマに講演を行いました。



21 国際 西オレゴン大学から 教員・学生が来訪

アメリカ合衆国西オレゴン大学（1990年に協定締結）より教育学部長始め8名の教員・学生が、12月7日から約一週間、本学を訪問しました。一行は細淵富夫教育学部長、山口宏樹学長を表敬訪問し、教育学部教授会においてGirod教育学部長が講演を行い、現在のアメリカの国家あるいは州レベルでの教育改革について言及されました。そのほか、音楽、美術を専門にする教員らによる講演や、本学附属小・中学校児童との交流活動などが行われました。



埼玉大学基金室より 埼玉大学修学サポート基金のご案内

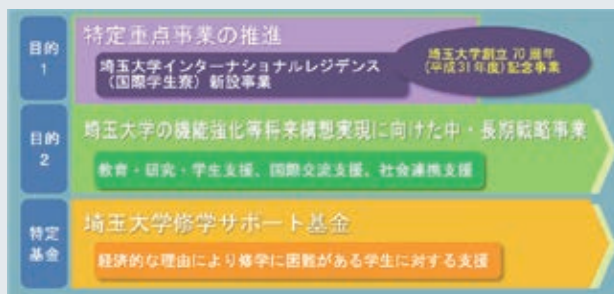
この度、埼玉大学基金内に新たに特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立しました。経済的な理由により修学に困難がある学生を対象として、以下の事業への支援を行うことを目的としています。

- 授業料・入学料減免事業 ● 奨学金事業 ● 海外留学支援事業
- TA（ティーチング・アシスタント）・RA（リサーチ・アシスタント）事業*

*学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を教育研究に係る業務に雇用する事業

この「埼玉大学修学サポート基金」に個人の方からいただいた寄附金については、所得税の寄附金控除を申告される際に、これまでの「所得控除」または、新たに対象となった「税額控除」のいずれかが選択できるようになりました。「税額控除」は寄附者の所得税率に関係なく、一律に寄附金額の約4割を所得税額から控除する制度であり、多くの場合において、減税効果が高いことが特徴です。詳細は下記ホームページから「埼玉大学基金の目的」「税制上の優遇措置」等をご覧ください。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



埼玉大学
基金の
ご報告

平成29年1月末の状況 **350,118,711円**
うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **53,495円**

埼玉大学基金室（広報渉外室内）

☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

🌐www.saitama-u.ac.jp/funds/index.html

古本募金「きしゃぼん」についてはこちらをご参照ください。

ホームページ <http://www.saitama-u.ac.jp/funds/kisyapon.html>

